

倫理学

授業科目名	授業題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター
倫理学特論Ⅰ	メタ倫理学の基礎	2	村山 達也	後期 金曜4限
倫理学総合演習Ⅰ	発表と討論	2	村山 達也、小松原 織香	前期 月曜5限
倫理学総合演習Ⅱ	発表と討論	2	村山 達也、小松原 織香	後期 月曜5限
倫理学研究演習Ⅰ	デカルトとエリザベトの往 復書簡を読む	2	村山 達也	前期 水曜2限
倫理学研究演習Ⅱ	デカルトとエリザベトの往 復書簡を読む	2	村山 達也	後期 水曜2限
倫理学研究演習Ⅲ	論証で辿る西洋倫理学史	2	村山 達也	前期 金曜2限
倫理学研究演習Ⅳ	倫理学の論文を読む	2	村山 達也	後期 金曜2限
倫理学研究演習Ⅴ	ジェンダーの視点から倫 理を議論する	2	小松原 織香	前期 火曜4限
倫理学研究演習Ⅵ	ジェンダーの視点から倫 理を議論する	2	小松原 織香	後期 火曜4限
倫理学研究演習Ⅶ	応用倫理学	2	小松原 織香	前期 水曜4限
倫理学研究演習Ⅷ	応用倫理学	2	小松原 織香	前期 水曜4限

科目名：倫理学特論 I

曜日・講時：金曜 4 限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：村山 達也

コード：LM25408, 科目ナンバリング：LIH-PHI619J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：メタ倫理学の基礎

2・授業の目的と概要：道徳（さらに言えば、価値一般）について、「何が善いことなのか」の他に、「そもそも『何が善いことなのか』という問いに正解はあるのか」、「正解があったとして、それを私たちはどうやって知るのか」、「正解を知ったとして、その正解は人を動かす力をもつのか」といった疑問が浮かぶことがあります。こうした問いを扱うのがメタ倫理学です。この授業では、メタ倫理学の基本的な問題や、その問題についての代表的な考え、さまざまな反論などを学びます。

- 3. 学習の到達目標：**(1) メタ倫理学の基礎知識（基本的な問題と主要な回答、ならびに重要な反論）を身につける。
(2) メタ倫理学が用いる方法についての基礎知識を身につける。
(3) メタ倫理学的な問題設定や考え方が自分でもできるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

講義を主とし、毎回アンケートを取ります。アンケートでの質問に基づく議論の機会を数回に一度設け、理解の確認と深化を図ります。

- 第一回：メタ倫理学とは何か：相対主義を題材に
 - 第二回：倫理学の古典におけるメタ倫理学的な議論（プラトン、ヒューム、ムーア）
 - 第三回：質問にもとづく議論
 - 第四回：道徳と認識 1：開かれた問い論法
 - 第五回：道徳と認識 2：情動主義
 - 第六回：道徳と認識 3：指令主義
 - 第七回：質問にもとづく議論
 - 第八回：道徳の存在 1：錯誤主義
 - 第九回：道徳の存在 2：自然主義
 - 第一〇回：道徳の存在 3：その他のさまざまな立場（神命説、準実在論、静寂主義）
 - 第十一回：道徳の理由 1：ホワイ・ビー・モラル？
 - 第十二回：道徳の理由 2：外在主義と内在主義
 - 第十三回：質問にもとづく議論
 - 第十四回：まとめ 1
 - 第十五回：まとめ 2
- 以上は予定であり、変更する可能性があります。詳細は初回授業で説明します。

5. 成績評価方法：アンケート 30%、学期末試験 70%。

6. 教科書および参考書：教科書は不要です（必要なものはプリントを配布します）。参考文献は講義内で適宜紹介します。

7. 授業時間外学習：資料や参考書を用いて、十分な予習復習を行なってください。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

科目名：倫理学総合演習 I

曜日・講時：月曜 5 限

開講学期：前期 **単位数：**2

担当教員：村山 達也、小松原 織香

コード：LM11507, **科目ナンバリング：**LIH-PHI622J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：発表と討論

2・授業の目的と概要：参加者は、自分の研究テーマに基づいた発表を行ない、特定質問者や他の参加者からの質問に答える。倫理学にかかわる問題について考えを提示し、議論する訓練をする。

3. 学習の到達目標：発表と討論を通して、相手に自分の考えを理解してもらい力と、相手の考えを理解する力とを、同時に養う。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

基本的には対面、特別な事情のある場合のみオンラインで開催します。資料や情報は classroom を使用して発信します。

1. ガイダンスと発表予定の決定
2. 発表と討論
3. 発表と討論
4. 発表と討論
5. 発表と討論
6. 発表と討論
7. 発表と討論
8. 発表と討論
9. 発表と討論
10. 発表と討論
11. 発表と討論
12. 発表と討論
13. 発表と討論
14. 発表と討論
15. 発表と討論

5. 成績評価方法：発表 7 割、出席 3 割。

6. 教科書および参考書：特になし。

7. 授業時間外学習：発表者の予稿を精読し、質問に備える。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：倫理学総合演習Ⅱ

曜日・講時：月曜 5 限

開講学期：後期 **単位数：**2

担当教員：村山 達也、小松原 織香

コード：LM21507, **科目ナンバリング：**LIH-PHI623J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：発表と討論

2・授業の目的と概要：参加者は、自分の研究テーマに基づいた発表を行ない、特定質問者や他の参加者からの質問に答える。倫理学にかかわる問題について考えを提示し、議論する訓練をする。

3. 学習の到達目標：発表と討論を通して、相手に自分の考えを理解してもらう力と、相手の考えを理解する力とを、同時に養う。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

基本的には対面、特別な事情のある場合のみオンラインで開催します。資料や情報は classroom を使用して発信します。

1. ガイダンスと発表予定の決定
2. 発表と討論
3. 発表と討論
4. 発表と討論
5. 発表と討論
6. 発表と討論
7. 発表と討論
8. 発表と討論
9. 発表と討論
10. 発表と討論
11. 発表と討論
12. 発表と討論
13. 発表と討論
14. 発表と討論
15. 発表と討論

5. 成績評価方法：発表 7 割、出席 3 割。

6. 教科書および参考書：特になし。

7. 授業時間外学習：発表者の予稿を精読し、質問に備える。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：倫理学研究演習 I

曜日・講時：水曜 2 限

開講学期：前期 **単位数：**2

担当教員：村山 達也

コード：LM13207, **科目ナンバリング：**LIH-PHI624J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：デカルトとエリザベトの往復書簡を読む

2・授業の目的と概要： デカルトとエリザベトが交わした往復書簡から、心身問題、感情（情念）、幸福、徳などを論じた個所の抜粋を読みます。エリザベトの、ときに鋭く、ときに切迫した問いかけに、デカルトがどう答え（損ね）たか、エリザベトがデカルトをさらにどう追い詰めたのかを検討することをつうじて、近代哲学の根本問題についての理解を深めることを目的とします。

訳読にあたっては、次回に読む箇所の文法事項のヒントや解説をグーグルドキュメントで毎回配布します。また、文法事項を丁寧に確認しながら進めますので、文法に不安がある場合でも受講できます

3. 学習の到達目標：(1) フランス語で書かれたテキストを正確に日本語に訳せるようになる。

(2) 古典的なテキストから議論を再構成し、それを批判的に吟味できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回：導入（デカルトとエリザベトの往復書簡についての簡単な紹介、テキストの配布、進め方の説明、参加者のフランス語習熟度の確認、担当の決定など）

第二回以降：訳読、報告、議論

5. 成績評価方法：出席、担当、参加度により総合的に判断します。

6. 教科書および参考書：必要なものはすべてプリントで配布します。必須ではありませんが、訳本には以下のものがあります。『デカルト＝エリザベト往復書簡』（山田弘明訳、講談社学術文庫）

7. 授業時間外学習：各回とも訳を用意しておいてください。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：倫理学研究演習Ⅱ

曜日・講時：水曜 2 限

開講学期：後期 単位数：2

担当教員：村山 達也

コード：LM23209, 科目ナンバリング：LIH-PHI625J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：デカルトとエリザベトの往復書簡を読む

2・授業の目的と概要： デカルトとエリザベトが交わした往復書簡から、心身問題、感情（情念）、幸福、徳などを論じた個所の抜粋を読みます。エリザベトの、ときに鋭く、ときに切迫した問いかけに、デカルトがどう答え（損ね）たか、エリザベトがデカルトをさらにどう追い詰めたのかを検討することをつうじて、近代哲学の根本問題についての理解を深めることを目的とします。

訳読にあたっては、次回に読む箇所の文法事項のヒントや解説をグーグルドキュメントで毎回配布します。また、文法事項を丁寧に確認しながら進めますので、文法に不安がある場合でも受講できます

3. 学習の到達目標：(1) フランス語で書かれたテキストを正確に日本語に訳せるようになる。

(2) 古典的なテキストから議論を再構成し、それを批判的に吟味できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回：導入（デカルトとエリザベトの往復書簡についての簡単な紹介、テキストの配布、進め方の説明、参加者のフランス語習熟度の確認、担当の決定など）

第二回以降：訳読、報告、議論

5. 成績評価方法：出席、担当、参加度により総合的に判断します。

6. 教科書および参考書：必要なものはすべてプリントで配布します。必須ではありませんが、訳本には以下のものがあります。『デカルト＝エリザベト往復書簡』（山田弘明訳、講談社学術文庫）

7. 授業時間外学習：各回とも訳を用意しておいてください。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：倫理学研究演習Ⅲ

曜日・講時：金曜 2限

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：村山 達也

コード：LM15207, 科目ナンバリング：LIH-PHI626J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：論証で辿る西洋倫理学史

2・授業の目的と概要：倫理学の醍醐味の一つは、道徳や幸福についてたんに意見を言うことではなく、そうした意見を根拠とともに主張したり、その根拠を吟味したりすることにあります。偉大な倫理学者たちが偉大なのにはさまざまな理由がありますが、その一つは、その人たちがしっかりした議論を作り、常識的な前提から、否定しがたいステップで、とてつもない帰結を引き出したりしたことに求めることができるでしょう。この演習では、プラトン以来の西洋倫理学史を、倫理学者たちのテキストから議論を再構成することを通じて学びます。

最初の数回で論証の再構成の仕方を

3. 学習の到達目標：西洋倫理学史について一定の知識を身につける。

論証の再構成ができるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

(演習ですので、以下はあくまで予定であり、大いに変更の余地があります。)

第一回：ガイダンス

第二回：論証の再構成のやり方 (テキスト：野矢茂樹『新版 論理トレーニング』第四章)

第三回：論証の再構成のやり方 (グーグルドキュメント上でダイアグラムを作る)

第四回：古代1：プラトン

第五回：古代2：アリストテレス

第六回：古代3：ストア派

第七回：中世：トマス・アキナス

第八回：近世1：デカルト

第九回：近世2：スピノザ

第一〇回：近代1：パスカル

第十一回：近代2：カント

第十二回：近代3：ミル

第十三回：現代1：シンガー

第十四回：現代2：ネーゲル

第十五回：まとめ

5. 成績評価方法：課題の提出 70%、演習内のパフォーマンス 30%。

6. 教科書および参考書：必要なものはすべてこちらで用意します。

7. 授業時間外学習：たびたび課題を出しますので、演習前に提出してください。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

9. その他：

論証の再構成や論理学を学んだことのない学生向けの注意：最低限の知識は演習内で説明しますが、論証の再構成や論理学について自習したり読書会をしたりすることは演習を受ける上で非常に有益です。教科書としては野矢茂樹『新版 論理トレーニング』(産業図書)やノルト、ロハティ『マグロウヒル大学演習 現代論理学 (I)』(オーム社)をお勧めします。

論証の再構成や論理学を学んだことのある学生向けの注意：この演習での第一の目標は、古典的なテキストから前提/帰結関係を大づかみに取り出すです。そのため、議論の妥当性をチェックした

科目名：倫理学研究演習Ⅳ

曜日・講時：金曜 2 限

開講学期：後期 **単位数：**2

担当教員：村山 達也

コード：LM25210, **科目ナンバリング：**LIH-PHI627J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：倫理学の論文を読む

2・授業の目的と概要： 自分で論文を書く上では、入門書も一冊の本も、お手本としてはあまり参考になりません。入門書は既に得られている成果の解説なので論文とは異なり、一冊の本は長すぎるからです。論文を書く参考になるのは、やはり論文です。そこでこの演習では、規範倫理学、メタ倫理学、福利論など、倫理学のさまざまな分野の論文（古典的なものから、現代の日本で書かれたものまで）を一週に一本読み、みなで議論しながら、問題設定、構成、論証、意義……などを分析していきます。一週に一本なので完全に理解することは難しいですが、「哲学倫理学の（よい／悪

3. 学習の到達目標：(1) 哲学倫理学における論文とはいかなるものであり、どのような規準によって評価されるのかを学ぶ。
(2) そうした規準を用いて自分でも論文を分析できるようになる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

- (1) ガイダンス
- (2) 論文分析の例、その 1
- (3) 論文分析の例、その 1
- (4) --(14) 参加者による論文分析と議論
- (15) まとめ

5. 成績評価方法：担当 6 割、授業内パフォーマンス 4 割

6. 教科書および参考書：必要なものはすべてクラスルームで配布します。

7. 授業時間外学習：課題論文をよく読み、担当者ではないときも分析を試みてください。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：倫理学研究演習 V

曜日・講時：火曜 4 限

開講学期：前期 **単位数：**2

担当教員：小松原 織香

コード：LM12408, **科目ナンバリング：**LIH-PHI628J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：ジェンダーの視点から倫理を議論する

2・授業の目的と概要： この演習ではテキストを読み、内容を端的に理解し、他者へ説明するためのトレーニングを行います。そのため、事前に決めた担当者に指定範囲の文章を要約してもらいます。その後、参加者で議論をします。

3. 学習の到達目標： (1) テキストを要約することができる。
(2) 現実に行き起きている倫理的葛藤に対し、論理的に自己の見解を示すことができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回：導入 ・担当箇所の割り振り

第二回：テキストの読解（1）

第三回：テキストの読解（2）（以下同様）

5. 成績評価方法： 演習への参加度やレポートなどで総合的に判断する。

6. 教科書および参考書： テキストはプリントで配布します。

現在、予定しているテキストはキャロル・ギリガン『人間の声で：ジェンダー二元論を超えるケアの倫理』川本隆史・山辺恵理子・米典子訳（風行社、2025年）です。

7. 授業時間外学習： 担当者は配当された部分のテキストを要約し、レジュメを作成してください。事前に人数分をコピーし、授業で配布して内容を報告してもらいます。担当外の者は、テキストをしっかりと読んでください。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：倫理学研究演習VI

曜日・講時：火曜 4 限

開講学期：後期 **単位数：**2

担当教員：小松原 織香

コード：LM22408, **科目ナンバリング：**LIH-PHI629J, **使用言語：**日本語

1. 授業題目：ジェンダーの視点から倫理を議論する

2. 授業の目的と概要： この演習ではテキストを読み、内容を端的に理解し、他者へ説明するためのトレーニングを行います。そのため、事前に決めた担当者に指定範囲の文章を要約してもらいます。その後、参加者で議論をします。

3. 学習の到達目標： (1) テキストを要約することができる。
(2) 現実に行き起きている倫理的葛藤に対し、論理的に自己の見解を示すことができる。

4. 授業の内容・方法と進度予定：
第一回：導入 ・担当箇所の割り振り
第二回：テキストの読解（1）
第三回：テキストの読解（2）（以下同様）

5. 成績評価方法： 演習への参加度やレポートなどで総合的に判断する。

6. 教科書および参考書： テキストはプリントで配布します。
現在、予定しているテキストはメリッサ・M・シュー・キンバリー・K・ガーチャー編『女の子のための西洋哲学入門』三木那由他・西條玲奈監訳（フィルムアート社、2024年）です。

7. 授業時間外学習： 担当者は配当された部分のテキストを要約し、レジュメを作成してください。事前に人数分をコピーし、授業で配布して内容を報告してもらいます。担当外の者は、テキストをしっかりと読んでください。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

科目名：倫理学研究演習Ⅶ

曜日・講時：水曜 4 限

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：小松原 織香

コード：LM13408, 科目ナンバリング：LIH-PHI635J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：応用倫理学

2・授業の目的と概要：この授業は原則として倫理学専攻の学生に向けて開講します。他専攻で受講を希望される方はご相談ください。

論文を書くためのテーマを選定し、資料を集め、章立てを考えます。また、実際に論文原稿を書き、卒論・修論・投稿論文等を執筆します。

3. 学習の到達目標：(1) 論文の書き方を理解する
(2) 論文を執筆する

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回：導入

第二回：テーマの選定(1)

第三回：テーマの選定(2)

第四回：テーマの選定(3)

第五回：資料の選定(1)

第六回：資料の選定(2)

第七回：資料の選定(3)

第八回：資料の読解(1)

第九回：資料の読解(2)

第十回：資料の読解(3)

第十一回：論文の構成(1)

第十二回：論文の構成(2)

第十三回：論文の構成(3)

第十四回：論文発表会(1)

第十五回：論文発表会(2)

5. 成績評価方法：演習への参加度やレポートなどで総合的に判断する。

6. 教科書および参考書：テキストはありません。必要な資料はコピーして配布します。

7. 授業時間外学習：テーマに沿って論文を書く準備をするので、資料を集めたり、読み込んだり、執筆したりする時間が必要です。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

9. その他：

【重要】卒論・修論を応用倫理学で執筆する予定の学生は、出来る限り履修してください

科目名：倫理学研究演習Ⅷ

曜日・講時：水曜 4 限

開講学期：前期 単位数：2

担当教員：小松原 織香

コード：LM13409, 科目ナンバリング：LIH-PHI636J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：応用倫理学

2・授業の目的と概要：この授業は原則として倫理学専攻の学生に向けて開講します。他専攻で受講を希望される方はご相談ください。

論文を書くためのテーマを選定し、資料を集め、章立てを考えます。また、実際に論文原稿を書き、卒論・修論・投稿論文等を執筆します。

3. 学習の到達目標：(1) 論文の書き方を理解する
(2) 論文を執筆する

4. 授業の内容・方法と進度予定：

第一回：導入

第二回：テーマの選定(1)

第三回：テーマの選定(2)

第四回：テーマの選定(3)

第五回：資料の選定(1)

第六回：資料の選定(2)

第七回：資料の選定(3)

第八回：資料の読解(1)

第九回：資料の読解(2)

第十回：資料の読解(3)

第十一回：論文の構成(1)

第十二回：論文の構成(2)

第十三回：論文の構成(3)

第十四回：論文発表会(1)

第十五回：論文発表会(2)

5. 成績評価方法：演習への参加度やレポートなどで総合的に判断する。

6. 教科書および参考書：テキストはありません。必要な資料はコピーして配布します。

7. 授業時間外学習：テーマに沿って論文を書く準備をするので、資料を集めたり、読み込んだり、執筆したりする時間が必要です。

8. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business

9. その他：

【重要】卒論・修論を応用倫理学で執筆する予定の学生は、出来る限り履修してください